

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.109

萩ジオパーク推進協議会

| 2024年3月29日発行 |



〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765 ☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 https://hagi-geopark.jp

📘 https://www.facebook.com/HagiGeoProject



地域のミュージアムが繋がったら、

きっと面白いことが生まれる！



地域の文化教育施設や団体との繋がりを強めるべく、博物館、美術館、さらにはキャンプ場までいろんな人たちにお声かけて、「はぎ・あぶ・やまぐちミュージアムネットワーク（仮称）キックオフミーティング」を3月12日～14日の3日間で開催しました。初日は顔合わせやお困りごと共有、2日目は萩ジオパークのプログラム体験やインタープリテーション講座、3日目は今後のコラボ企画づくりやネットワークの名前決め、といった内容です。今回集まっていたいただいた皆さんは、専門分野は全く違いますが、地域の文化や教育に対して大きな役割を担っている同志です。お互いの施設のことを意外と知らないことが分かったり、みんな似たような苦勞をしていて、それは力を合わせれば何とかかなりそう、ということもわかりました。そして、異なる高度な専門性を持った人たちの集まりは、いろんな視点の交差点です。これから面白いコラボ企画が次々と生まれ、地域が盛り上がっていく未来の可能性をビシビシ感じる3日間でした。今後は、組織同士というよりは、人同士のネットワークという形でつながり、力を合わせて課題を乗り越えたり、化学反応で全く新しいものを世に生み出したり、そんな活動が出来たらと思っています。どうぞご期待ください！

『大地の日 in 阿東』を開催しました！



3月10日は「大地の日 in 阿東」でした。12月から萩で月に1回開催してきたミニイベントですが、今回は初めて会場を変え、山口市阿東の「三谷ふれあいセンター（旧三谷小学校）」での開催でした。

朝はなんと氷点下！霜が降りるほどの寒さでしたが、天気は良く日差しは暖かで穏やかな1日でした。野外ではたき火を囲んで飲んだり食べたり工作したり、屋内でも実験や工作をしたり…。イベント参加者も出展者も思い思いの時間を楽しんでいる様子でした。

いろんな分野の人たちが定期的集まって、雑談しながらゆったり過ごす、とても居心地の良い空間です。こういうところから次の楽しい活動の芽が出ると思っています。「大地の日」は来年度もゆくりとやっていく予定です、みなさん遊びに来てください。



「体験活動サポーター養成講座」を開催しました！



「大地の日 in 阿東」と同時開催で、「体験活動サポーター養成講座」を開催しました。他者との関わり方を実践で学び、様々なプログラムをサポートできる力を身に付ける講座です。講師は、萩ジオパークパートナーでもあり、山口市阿知須を拠点に活動されている「一般社団法人いなみ自然学校」の北澤良太さんをお願いしました。

受講者同士でコミュニケーションを取りながら人との関わり方を学んだり、「大地の日」の体験コーナーの1つとして実施した「ネイチャークラフト体験」のスタッフとして活動したり、実践的で充実した内容の講座でした。

笑い声が絶えず、受講者の皆さんが楽しそうに活動されているのが印象的でした。

萩ジオパークでは、大地と人の関わりを多くの方々に実感していただくことを大切にしていますが、そのために“体験活動”を重視しています。今回受講していただいた皆さんには、ぜひ大いに活躍していただき、一緒に活動を盛り上げていただきたいと思います。

大井ふるさと愛好会から

萩市ジオパーク活動補助金「魅力発信！鵜山台ジオウォーク」の報告が届きました！

3月3日、27名が参加し「魅力発信！鵜山台ジオウォーク」を開催しました。受付時はあいにくの雨だったのですが、ウォークが始まる頃には上がり、終わる頃には青空が見え気温も徐々に上昇し事故もなく無事終了しました。

講師は、大井ふる里愛好会の吉屋会長と白井ジオパーク専門員が務めました。吉屋会長のユーモアを交えた丁寧な説明に加え、白井ジオパーク専門員からは溶岩台地の特徴と合わせて、高代の磯に江戸時代から残る採石の痕跡や、水はけの良さを活かした柑橘畑等の説明がありました。参加者は配布した資料にメモを取り、写真撮影を行うなど興味深く聞いていました。スコリア丘付近は赤土で玄武岩が風雨にさらされながら長い年月をかけて風化した結果であるとの説明があり、玄武岩の一部がボロボロと欠け土になっていることに皆さん驚いた様子でした。

閉会にあたり、吉屋会長から「今日は鵜山の東側を巡りましたが、次は西側の面白い場所を案内したいと思いますので、次回を楽しみにまた参加してください」とのあいさつをして終了しました。みなさん大変満足した様子で帰られました。



鵜山登り口案内板前での集合写真

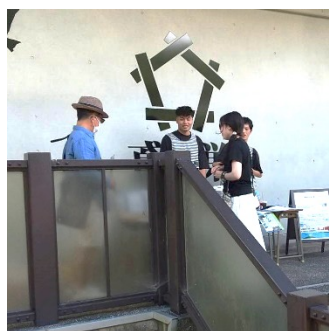


高代の磯で白井専門員が説明している様子

笠山山頂展望台鳶ノ巣から

令和5年4月にオープンしてから、手探りの状態で試行錯誤を繰り返しながら運営してきた「鳶ノ巣カフェ」も、もうすぐ一周年を迎えます。オープン当初から笠山ジオの会や地元のジオパークパートナー、協議会の委員でもある至誠館大学や萩市観光協会と連携したイベントを開催したり、地元の方々から店に飾る花をご提供頂いたり、1月に新たにジオパークパートナーに加わった萩コーヒー・ルポとご当地コーヒー「笠山」を開発し販売したり、と様々な方々にご協力いただいた1年となりました。皆様のご協力もあって2月上旬には、当初売上目標を達成することができました。本当にありがとうございます。

次の1年も、萩ジオパークの理念を共有する皆様と様々な活動を行っていきたいと思っています。新たなパートナーさんも募集していますので、是非一緒に活動してみませんか！！萩ジオパークパートナーについては公式HPでご確認ください。



また、笠山の山頂は様々な種類の桜を楽しめます。カフェでゆっくりと、鳶の目線で花見を楽しみませんか。桜の開花状況はカフェインスタグラムで随時紹介します。こちらもチェックしてください。



写真でたどる令和5年度トピックス

萩ジオパークの令和5年度は、4月の笠山山頂展望台鷹ノ巣カフェオープンに始まりました。1年間を通して皆さんと一緒にイベントや講座を開催したり、保全活動を行ったり、新たな取組みもスタートしました。来年度も、何卒よろしくお願いいたします。

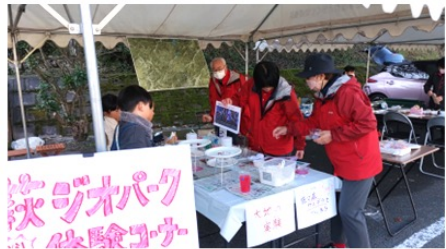
春



夏



秋



冬

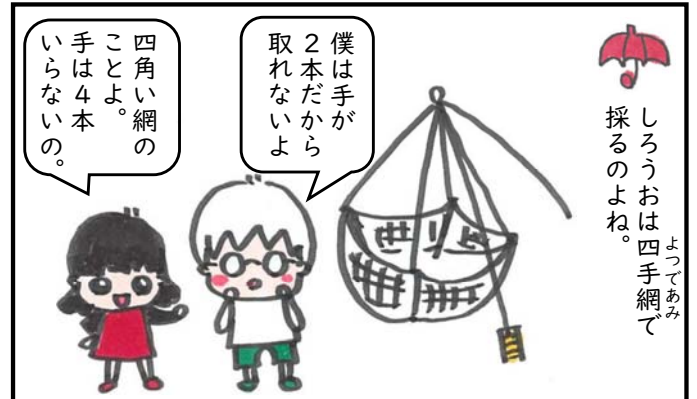
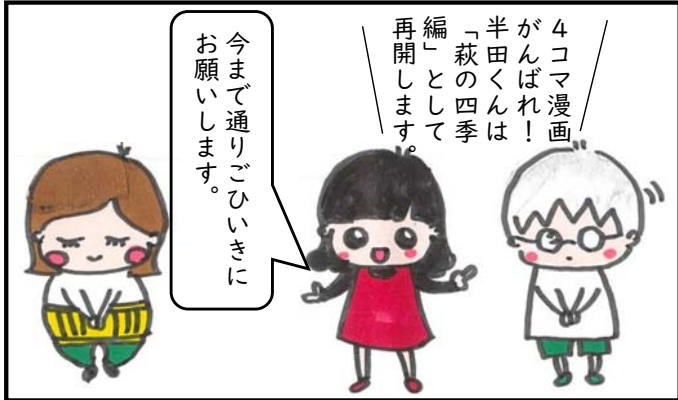


はん だ がんばれ!半田くん

原作：わっきー教授 画：白玉だんご

第84話 萩の四季編 スタートします

第85話 春・しろうお漁



ワッキー教授のひとりごと

四コマ漫画「がんばれ！半田君」の5年目を迎えました。前回のSDGs編が終了し、今春から、新しいシリーズを始めることになりました。シリーズ『萩の四季』です。その最初として、萩の春を代表する「松本川のしろうお漁」を取り上げました。



「しろうお漁」は、松本川河口の姥倉運河周辺で、2月下旬から4月上旬に行われます。十字に組んだ竹の四隅に網を固定した四ツ手網を川底に沈めて、海から川へ向かう川の流れに乗って、「しろうお」が遡上してくるのを捉えます。網の上を



しろうお漁(四ツ手網漁) (萩市観光協会)

柄の長い柄杓ですくい取ると、透明な身体のしろうおがたくさん捕れます。活きた「しろうお」に、酢醤油をつけて食べるのが「おどり食い」です。漫画では、半田君がクネクネと踊りながら「しろうお」を食べていましたが、別に踊りながら食べな

くても良いそうです。「しろうお」君が代わりに踊ってくれます。口の中でしろうおが踊ることで生じる舌触りと感触を楽しみながら、魚のうま味を味わうことができます。

松本川は、阿武川の最下流部の名称です。阿武川は、山口市阿東嘉年上の源流から、阿東徳佐や長門峠を経て、萩市市街地で、橋本川と松本川の2つに分かれます。橋本川と松本川の間には、萩市市街地の地盤となっている三角州が広がっています。三角州というのは、三杯酢と似ていますが、全く別のものです。三杯酢は酢と醤油と味醂で作られています。三角州は砂と泥と礫で出来ています。全く違いますね。当たり前ですが(笑)。三角州は、川が海に注ぐ河口に広がる平野です。川が海に入る前に川幅の広い河口になり、川の流れがとてもしずかになると、砂や小石がどんどんつもり、三角形の高まりが出来ます。これが三角州です。萩の三角州は、北東側の松本川と、南西側の橋本川に挟まれています。これは、集中豪雨など激しい雨で大量に運ばれた土砂が阿武川から押し寄せてくる川の流れを遮って、橋本川と松本川の二手に分かれて川が流れ始めたと考えられます。



田床山から見た萩三角州